【学位論文審査の要旨】

本学位論文は，インドネシアにおける進行がん患者のウェルビーイングに対する作業の貢献についての一連の研究から構成されている．この研究は，作業療法の実践モデルプログラムを開発する研究プロジェクトの一環とした実施された．

進行がん患者に対する作業療法は，世界的にも知見が少なく，機能障害や介護負担に焦点を当てた介入が多い中，本研究は個人における作業そのものの持つ意味と，その作業が進行がん患者のウェルビーイングに貢献する可能性を見出した点で非常に価値がある．

主論文と副論文 2 編で構成されており，副論文１は博士前期課程在学中から癌を有する小児の日常の作業に関連する社会文化的背景研究に取り組んだ成果である．解釈的現象学デザインで，'The surrounding human environment as primary encouragement', 'Culture and spirituality as the basic standard' and 'Activity adjustments as new habits'の作業療法支援を計画するために非常に役に立つ３つのテーマを生成した．

博士後期課程在学中には，癌を有する小児の作業への焦点を成人のがん患者におけるのウェルビーイングへの作業の貢献にシフトし，副論文２はスコーピングレビューで進行がん患者（成人）にとって作業そのものの持つ意味を見出した点で非常に価値がある．

主論文は現象学的研究デザインに基づき，(1) Preserving life, (2) Relieving mental burdens, (3) Sharing benefits in social settings, (4) Feeling spiritually reinforced の 4 つのテーマを見出した．本研究は作業が進行がん患者のウェルビーイングに貢献する特徴を見出した点で非常に価値がある．

公聴会や口述試験において方法論や研究成果の意義に関する質問があり，申請者はこれらを真摯に受け止め，方法論的な課題を述べるなどで今後の研究の進展に関する十分な意欲があることが認められた．また，関連した領域の知見に関しても高い見識を披露した．なお，上記の研究から明らかになってきた知識を踏まえて，申請者は，作業療法の実践モデルを開発する研究課題にすでに取り組んでいる．

結論としての評価は，

学位論文審査基準の項目（博士）	評価
明確である研究の目的・意義	合
適切な研究デザインと計画	合
データ収集とデータ分析の実施	合
研究の成果，限界，今後の課題に対する考察	合
作業療法の発展に寄与する内容	合
新規性があり，科学的価値	合
研究のテーマに関する専門性	合

上記より，申請者はインドネシアにおける進行がん患者のウェルビーイングに対する作業の貢献の研究課題に真摯に向き合い，そのウェルビーイングに対する作業の貢献に対する理解を深めたため，研究者としての優れた資質を有すると評価される．さらには本研究結果において，重要な示唆を得た点において作業療法学上，極めて先駆的な研究に位置付けられる．

以上のことから，本研究が博士論文として適格であり，本申請者が博士の学位（作業療法学）を授与するに相応しい知識と研究能力を備えていると判定する．